

# 命・愛・人権 II

## 「いのち・愛・人権II」 写真パネル展の開催にあたって

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である。」

1948年に国連で採択された世界人権宣言の第一条は高らかにこう宣言しています。しかし、その同じ年、少数派白人による黒人支配が続く南アフリカでは、アパルトヘイト（人種隔離政策）が正式に国の政策として採用され、多くの悲劇が生じてしまいました。

この南アフリカのアパルトヘイトは遠い国、遠い昔の出来事ではありません。当時の日本は、南アフリカにとって最大の貿易相手国であり、日本人は「名誉白人」とされていたのです。日本の経済的な結びつきが、白人の人種差別政権を結果的に支えていたという事実を、私たちは知っておくことが大切です。

一方、アジアに目を転じてみると、貧困や政治的弾圧などにより深刻な人権侵害が各地で続いています。日本はこのアジアの状況とも決して無縁ではなく、むしろ深いつながりを持っているのです。経済的にはアジア各地に日本企業が進出しています。そして不況の中、働き先を失った人たちが、地元での生活がやっていけなくなった人たちが、多く日本に働きに来ています。言語や生活慣習、厳しい労働条件など複数の要因が重なって、その人権侵害が問題となっています。

アジアや南アフリカでの差別や人権侵害は、私たちの問題でもあるのです。これらの写真をご覧になって、そのことを感じとり、人権の大切さについて考えていただければ幸いです。

アジアや南アフリカでの差別や人権侵害を写真や文章で解説、紹介

B2：21枚

過去、少数派の白人による黒人支配が行われた南アフリカでは、国の人種隔離政策（アパルトヘイト）が、多くの悲劇を生み出しました。当時の日本は、この国の最大の貿易国として、「名誉白人」とされていました。経済的な結びつきがその政策を支えていたのでした。

アジア各地でも日本企業の進出し、経済的な繋がりがでてきています。その一方、働き場を失う人たちも多く出てきています。地元で働けなくなった人々が日本への出稼ぎに行くなどの社会現象も起きています。